

日刊



The Daily MANILA SHIMBUN

ASIAN INTERNATIONAL COMMUNITY INFORMATION, INC. (Printer-Distributor)

AICI, Manila Shimbun Building, 1037 Teresa Street, Rizal Village, Makati City

Tel. 890-4546 / 890-4745 Fax. 890-3640

P70.00 in METRO MANILA

発行 びすく社

東京都世田谷区玉川2-9-15

© BYSCH 2011

http://www.manila-shimbun.com



きょうの天気と気温

マニラ	☀/☁	23-31
バギオ	☀/☁	14-24
タガイタイ	☀/☁	19-25
アンヘレス	☀/☁	24-31
セブ	☀/☁	25-30
ダバオ	☀/☁	24-31
カガヤンドオロ	☀/☁	22-29

日の出(マニラ) 午前6時23分
日の入り 午後5時57分
5日の気温 最高31.4(午後2時)
最低23.3(午前6時)

外国為替(5日)

休日のため取引なし
前日の終値 \$1=P43.770
=¥81.57

1万円=P5,330, \$100=P4,375
(マニラ市の市中両替商調べ)

トッピニュース(5日)

殺人罪で起訴されたラクソン上院議員が公訴棄却の控訴裁判決を受けた問題で、司法省は「逮捕状執行は依然有効。執行のため所在特定続ける」と強調(スターほか)
環境天然資源省が約500の鉱山採掘許可を破棄。新規許可申請の受け付けも一時中止へ(スタンダードトゥデー)

大衆紙の話題

高校生に悪魔とつくづく? ビサヤ地方イロイロ州オトン町でこのほど、高校生5人が突然、奇行を繰り返す事件があり、地元ラジオ局が「悪魔の仕業」と報じた。報道によると、5人が校舎内で学校行事の準備をしていたところ、女性の亡霊が現れた。驚いた5人は直ちに下校したが、その途中、路上に寝転がるなどの奇行を繰り返した。また、うち1人が携帯電話に「1、1、3、3、6、6、6」の数字列を入力したところ、笑い顔の絵文字と「デーモン」という文字が現れたらしい。地元の神父は「生徒の1人は飲酒状態だったと聞いている。悪霊にとりつかれたのではなく、何らかの心理的要因で奇行に及んだのではないかと話している。(5日・Pトゥナイト)

「逮捕状すでに失効」
ラクソン議員側が反論

殺人罪に問われたラクソン上院議員に対する公訴を棄却した控訴裁判決を受けて、同議員の弁護士は5日、判決により逮捕状は失効した。逮捕状は失効した。逮捕状執行が可能との見解を示していた。

大雨死者17人に

5日の国家災害対策本部発表によると、ビサヤ、ミンダナオ両地方の大雨被害は、新たに8人の死亡が確認された。死者数は計17人となった。行方不明は3人。新たに死者が確認されたのはコンボステラバレー、北アグサン両州各1人、南スリガオ州4人など。

MILF議長

目標は「小国家設立」

交渉再開 改憲含みの譲歩迫る
前に会見

9日から始まるアキノ新政権との和平交渉を前に、イスラム急進派「モロ・イスラム解放戦線(MILF)」のアルハジ・ムラド議長は5日、ミンダナオ地方マギンダナオ州スラングクラット町内のMILF拠点で、国内外の報道関係者を集めて記者会見を開いた。アロヨ前政権末期に提示した包括的和平協定案に沿って交渉を進める考えをあらためて強調し、「アキノ政権が誠実に対応すれば、1年以内の和平合意も可能だろう」と述べた。同協定案の柱は、立法権や資源開発権の一部移譲を伴う「サブステート(小国家)」の設立で、アキノ政権側は歴代政権と同様に憲法改正含みの対応を迫られることになる。

対MILFと和平交渉 モロ・イスラム解放戦線(MILF)は1978年、イスラム最大勢力、モロ民族解放戦線(MNLF)から離脱。比からの分離・独立、イスラム国家樹立を最終目標に武力闘争を継続してきた。ラモス政権末期の97年に始まった和平交渉では、統治形態や領域問題で「共和国憲法枠内の自治」を超える高度な自治を要求。アロヨ前政権は主要議題を①

との間で、和平交渉の最終主要議題「父祖伝来の土地」問題に関する覚書を作成し、和平合意の一手前までこぎ着けた。しかし、外交や国防、統治権など国家主権の一部移譲とされる条件が覚書に含まれていたため、最高裁は締結を差し止めた上で、2008年10月に「覚書締結は対象地域の事実上の独立を意味し、憲法と相いれない」と違憲判決により、比政府の同意を得られない以上、比国家の下で(MILF支配地域を



マギンダナオ州内の拠点内で記者らの質問に答えるムラド議長=5日午前10時半すぎ写す

限や領域設定となるが、ムラド議長はこれらの詳細には踏み込まなかった。交渉を円滑に進める条件として、同議長がアキノ政権側に求めたのは①誠実さ②引き延ばし作戦の放棄と国軍による軍事的侵略の回避③政治的意志の3点で、「現政権が真に誠実ならば、1年以内の和平合意も可能だろう」と付け加えた。

比政府とMILFの和平交渉は、最高裁の違憲判決と、比政府の同意を得られない以上、比国家の下で(MILF支配地域を

手品にワクワク

NGO発足記念式で
福岡のグループ披露

圏マニラ市内であり、約60人が集まった特設会場で福岡県のボランティア・グループ「わくわくマジック福岡」が手品を披露した。浴衣姿の日本人ボランティアが手品を次々に披露。造花やステッキがハンカチに変わったり、紙を丸めて開くと紙の帽子が出来る上、息子と共に参加。「この催しを楽しみにしていた。私も手品ができるようになった」と話していた。

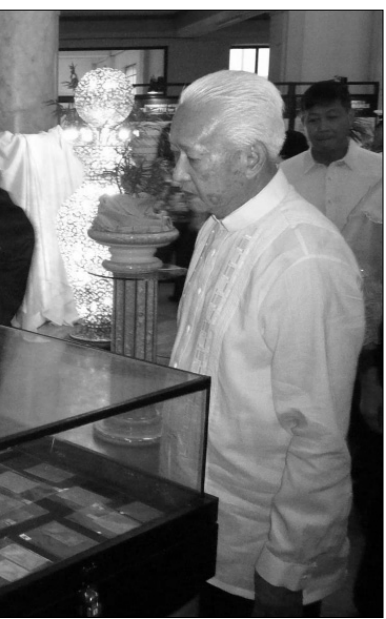
に新聞紙で「かぶと」の折り方を教えたり、子供たちには12色入りのペン、チョコレットなどを配った。16年前に東京都内で働いた経験があるというイデルリナ・イガラさん43歳、ミンダナオ地方バンガ州アンヘレス市在住は、15歳の息子と共に参加。「この催しを楽しみにしていた。私も手品ができるようになった」と話していた。

改憲なくして和平なし 政府側元団長

政府側交渉団のメルカド元団長は5日、マニラ新聞の電話取材に対し、「共和憲法が改正されない限り、包括的和平はあり得ない」と述べ、アキノ現政権下の交渉でも改憲が成否の鍵を握ると強調した。

MILF側と和平交渉団のイクバル交渉団長によると、カト元団長は10年7月ごろ、第105部隊長を辞し、11年に入って公表したビデオ映像で「独自部隊を結成したい」と宣言した。配下は約千人で、うち武装兵は200人程度という。

一方、MILFのムラド議長は5日の記者会見で、「分派形成はMILFの内政問題で、解決に取り組んでいる」と分派問題の存在を認めながら、「カト司令官を含めた全MILF将兵は、執行部のコントロール下にある。MILFの結束は揺らがない」とも強調した。



蘇る死臭...虐殺の記憶 「日本人を許せても忘れることできず」

1945年2月3日から3月3日にかけて続いた「マニラ市街戦」。首都圏マニラ市の同市役所で3日に行われた式典や資料展示を見た参加者からは「こんな悲惨な事件が起きていたとは知らなかった」「遺族として日本政府高官による謝罪を求めたい」などの声が聞かれた。

式典に参加した比人元退役軍人のマルセリノ・パリヤルタさん(83)は、ギリラ兵として米軍と一緒にマニラス地区で荷役人夫として日本軍の下で働いていた多数の比人男性らの死体を見た。ひどい臭いだ」と当時を振り返った。

第2次世界大戦でポーランドのワルシャワに次ぐ規模の破壊を受けたマニラ市街戦での死者数12万人のうち、10万人以上が在留外国人を含むマニラ市民だったとされる。

市街戦に関する展示を見ている同市職員は「マニラ市街戦で失った13人を市街戦で失った」と、こんな悲惨な虐殺が起きていたとは、ミンダナオで起きたアンパトウアン一族による大量虐殺事件よりよっぽどひどい」とため息をついていた。サントスさんは出身地のルソン地方パラワン州コロコン町で戦時中、町

の中心にあつた公園でゲリラの疑いをかけられた比人住民が日本兵により体の皮膚を剥がれ、さらされたという。市街戦で親族を殺された遺族や歴史研究者などが参加して結成された市民団体「ヌモラ・マニラ1945」の代表を務めるジョ

ン・ロチャさん(73)は、母親と叔母4人、いとこ8人の計13人を市街戦で失った。母親はマラテ地区にあった自宅敷地内で砲撃を受けて死亡し、残りの親族12人はエルミタ地区のカラウ通りにあった「ジャーマン・クラブ」と呼ばれた建物に避難した際に日本軍によって殺されたという。ロチャ

さんは「イオ半のいとは銃剣で刺殺され、18歳くらいだったおばはレイプされたから殺された」と聞いていた。当時のことを振り返った。このクラブでは5人のドイツ人を含む計600人の比人市民が虐殺されたと言われている。ロチャさんは「日本人を許すことはできても、当時のことを忘れることはできない。いつの日か、マニラ市街戦の犠牲者を追悼する慰霊碑の前に日本政府の高官が来て、謝罪してくれたい」と願っている。

太平洋戦争中、3年半にわたる比を占領した日本軍は、マッカーサー將軍率いる米軍の反攻を受けて山下将軍率いる陸軍主力はルソン島北部に撤退し、海軍防衛隊約1万6千人が首都に残り、同年2月3日に米軍は4方面からマニラに侵攻し、日本軍との間で激しい市街戦を繰り返した。

マニラ市街戦の資料を見るリム市長(右端)や各国大使館関係者ら113日午前8時ごろマニラ市役所で写す

マニラ市街戦 66周年で遺族ら

マニラ市街戦の犠牲者を追悼する慰霊碑の前に日本政府の高官が来て、謝罪してくれたい」と願っている。

分派形成について、カルロス比大教授「政治学」は、ムラド議長率いるMILFが1970年代、イスラム最大勢力のモロ民族解放戦線(MNLF)から分離し、比政府とMNLFの和平合意後も武力闘争を継続してきた経緯を重視。「たとえMILFとの和平協定締結に

2月下旬にルソン地方ベングエット州バギオ市で開かれたバギオ・フラワー・フェスタは、前年の「教訓」を踏まえた措置とみられる。4日付け英字紙サンスタアに再び営業許可申請を提出した。許可した前年は、同エスティバルで、日本人実

バギオ市のフラワーフェスタ 今年是有料特設席なし

設置し、観光客から「高額の席代を徴収された」との批判を浴びた。今回の却下は、前年の「教訓」を踏まえた措置とみられる。4日付け英字紙サンスタアに再び営業許可申請を提出した。許可した前年は、同エスティバルで、日本人実

前年の教訓生かし許可出さず

マニラ市街戦の資料を見るリム市長(右端)や各国大使館関係者ら113日午前8時ごろマニラ市役所で写す

毎朝食卓で“フィリピン”が読める日刊マニラ新聞
【代表】 ☎890-4546, 890-4745 Fax. 890-3640 【広告部】 ☎890-8480 Telefax. 895-4245 ☎897-3732
【編集部】 ☎895-3663, 890-3699 Fax. 890-4395 【顧客サービス】 ☎895-4159 【セブ支局】 ☎(032)343-8911

マニラ新聞配達区外にお住まいの方は、ホームページのご購読をおすすめします。早朝5時からマニラ新聞1面の全文を読むことができ、過去記事の検索・閲覧も可能です。1ヶ月P1,000(6ヶ月毎の契約です)より。詳細はホームページ上の「Webでのニュース購読」をクリックしてください。
http://manila-shimbun.com 日刊マニラ新聞